



SEIKEI
INSTITUTE FOR
INTERNATIONAL
STUDIES

SIIS

成蹊学園 国際教育センター

Vol.
20

NEWS

2014.9

特集

国際交流

@成蹊大学

海外に行かなくても、
学内でも
国際交流できます。

バディに登録しよう!

来日する協定留学生を空港で出迎え、彼らのキャンパスライフをサポートする「バディ」制度。毎年6月頃、12月頃にバディの登録を受け付けています。



English Chat Timeに参加しよう!

English Chat Timeはリラックスした雰囲気でも国際教育センターの英語教員や協定留学生たちと英会話を楽めると好評です。事前申し込み制ですので、興味がある方は掲示板やホームページ等をチェックしてください。留学希望者や協定留学生と交流したい学生が多く参加していますよ。



国際交流バスツアーに参加しよう!

日本人学生と留学生との交流を目的とした国際交流バスツアーを前期と後期の年2回実施しています。2013年度後期は長野県軽井沢町でカーリング体験、今年度前期は千葉県富津市で地引網を体験しました。さまざまな体験を通じて、留学生と仲良くなるチャンスです。参加をお待ちしています。



参加者
募集!

今年度後期の

国際交流バスツアー

10月17日(金)催行

(四大戦開催日のため、大学の授業はありません)

富士山麓の青木が原樹海で洞窟探検をします。昼食には山梨名物のほうとうをいただきます。

■参加申込は国際課まで

国際交流会館で留学生と生活しよう!

学生アドバイザーとして成蹊大学国際交流会館に協定留学生と居住し、日常的に国際交流をしませんか? 学生アドバイザーは毎年10月に募集します。興味がある方は、ホームページで募集要項を確認してください。



国際交流会館で行われるパーティに参加しよう!

国際交流会館のラウンジでは国際教育センター主催の国際交流イベントのほか、入居者企画による七夕パーティやハロウィンパーティなども開催され、参加者を募集します。これらのイベントについては、掲示板等でチェックしてみてください。



自らイベントを企画しよう!

留学生と一緒にこんなイベントをしたい、この国のこの文化を体験したい、といった企画がありましたら、国際課にご相談ください。内容によっては費用を補助します。過去には留学生の出身国の文化や料理を紹介するイベントなどが行われました。国際交流を目的としたイベントであれば、国際交流会館のラウンジ等の施設を使用することもできます。国際課にて手続きしてください。

国際交流賞

国際教育センターでは、国際交流活動を積極的にを行い、かつ優秀な成果を収めた学生に「国際交流賞」を授与しています。候補者の募集は毎年9月下旬～11月中旬まで行っています。

今号は昨年度、国際交流賞を受賞した学生の活動レポートをご紹介します。



ガーナにおける教育支援について

藤代 めぐみ(文学部)

アフリカに渡航した理由は主に2つある。第1に新たな市場として注目され始めているアフリカがどのような世界なのか、見てみたかったからである。日本人にとって、アフリカという世界は未知の世界である。唯一流れてくる情報は、テロや紛争に関するものばかり。それゆえ多くの方がアフリカ=危険、貧困というイメージしかもっておらず、どのような国家が成り立ち、そこにどのような文化があるのか、何一つ知らないだろう。実際私も、渡航するまではアフリカについて何も知らなかった。第二に交換留学最後のまとめとして、留学中に勉強したことを用いて社会に貢献して行きたかったからだ。私の日本における専攻は言語学であり、留学先のエジンバラ大学でも言語学を学んでいた。エジンバラ大学は言語学研究において、世界的に名高い大学であるため、質の高い授業を受けることができた。また、授業で学んだことを用いて自らteaching English as second language を学んだ。私はNative speakerではないが、non nativeとして英語を10年間学んだ立場として、英語を教えたいと思いアフリカの子供達に英語を教える決意をした。

現地で私が関わったプロジェクトは大きく分けて2つある。第一に、英語教育の拡大プロジェクトが挙げられる。ガーナは1957年以前、イギリスの植民地であったため、公用語は英語とされている。しかし、実情は70近くの言語が飛び交いtwiと呼ばれる言語の話者が多くの割合を占めている。そのため小さな村では、英語話者は少数であり、ビジネスの手段と成りうる英語教育は未発達である。また、初等教育は日本と同様に無料で行われているが Secondary schoolの費用は非常に高く、一部の生徒しか通うことが出来ない。そのSecondary

schoolに取ってかわって作られたのが、ICESSという職業訓練学校だ。ICESSはガーナ政府により建てられたもので、電気工学やコンピューターなど専門性の高いスキルから、裁縫といった生活に役立つスキル、一般教養となる英語や数学を学ぶ学校であり、ガーナ全土に75校ある。私は今回ICESSの英語の教師の一人として、現地で英語教育を行った。第二に、ICESS schoolの再建だ。ドアもなければ窓もなく、床のコンクリートは砂で覆われている。もちろんトイレもなく、みな野外で用をたしている。壁は崩れかけており、机や椅子も古く、とても子供達が勉強する場所とは思えないのが現状だ。そこで私はICESSの校長と相談をし、学校再建案を提示した。壁の補強、床には新しいコンクリートを流し込む、学校の周りに生える雑草の伐採、そしてコンピュータールームの建設を行った。

本活動を通じて、今までの当たり前が当たり前ではなかったということを確認出来た。当たり前に水道から水がでて、ガスがあり、電気がある。何1つ疑問に思わなかったが、実は幸せなことだということに気がついた。現地では水を汲みに遠くの井戸まで歩き、その水を大事に何日もかけて使う。お風呂という概念はなく、一週間に一度水浴びができれば良い方だった。またガーナの道には街頭がなく、日が沈むと暗くて何も見えなくなるので日が沈むと同時に寝るという生活を送っていた。自分の何気ない日常が、感謝すべきことだったことに初めて気がついた。アフリカからの帰国後、初めて温かいシャワーを浴びたときの感動は今でも忘れることが出来ない。

この経験を踏まえ、自分の仕事が国を変える商社の動きに魅力を感じ、来春から商社の総合職として働く。海外電力に携わり、インフラの整っていない地域に電気を届ける仕事がしたいと考えている。世界中を飛び回る商社ウーマンとして活躍していきたい。



Internship at Missoula Community Access Television

山田 瑞穂(文学部)

2013年5月から同年7月までアメリカ合衆国モンタナ州ミズーラ市にある、地方公共テレビ局でインターンシップをしました。

将来はテレビ局で働きたいと長年思っており、留学前から、ジャーナリズム学の盛んな米国でそういった関係の仕事でインターンシップをしたいと考えていました。ジャーナリズム学の権威であるモンタナ大学で、ジャーナリズムの授業を履修したことで、その気持ちはよりいっそう強くなりました。特に、教授がドイツ人の国際ジャーナリストであったことで、自分の生まれ育った国とは違う場所で、ジャーナリストとして働くことは、自分自身の価値観を変えたとともに、現地の人々にも新たな価値観をもたらすということに気づき、ぜひアメリカで、日本人である私が働くことによって、自分にも地元の人にもなにか得るものがあるといいと思い、インターンシップを申し込みました。

主な活動として、「大学構内における銃規制問題」や、「同性愛者の権利」などテーマの異なる6つのショートドキュメンタリーと、「ミズーラドキュメンタリー」と題したミズーラを紹介するドキュメンタリーの計7つのビデオを作りました。構成、インタビュー(インタビューに適

した人物検索、アポイントメント)、ビデオ撮影、スクリプト作成、ナレーション録音、動画の編集と、作成する全課程を一人で行いました。

最終的に、7つのビデオを作る上で、22人の現地の方にインタビューをしました。インターンシップを通して、ただ大学で勉強をしているだけでは出会えないような人達のお話をたくさん聞くことができました。日本とは季候も地形も、人種やもちろん言語においても異なる場所で、「日本人の」私という視点からインタビューをし、ビデオを作ることで、ミズーラの方が気づけなかったような部分にもスポットライトを当てることができ、地元の人には「私たちの街を再発見させてくれてありがとう」といった言葉をかけていただくことができました。

昨年、国際交流賞のための報告書を提出した際には、将来の展望ということで、「やはり将来はマスコミ関連の企業に就職をして…」というのを書きました。就職活動が終わり、志望していたテレビ局に内定をいただくことができましたので、今考える将来の展望としては、マスメディアというフィールドで、日本を世界に発信する、また世界を日本に紹介する役割ができる立場として活躍すると同時に、特派員を目指し、自分が海外で働くことで、自分の下の世代の、海外で働くことへの興味関心をひき、可能性を広げることの助けをする立場になればいいと思います。





アメリカにおける ミュージカル活動

島田 茉里子(文学部)

私はアメリカ・モンタナ大学に留学していた際、課外活動としてコミュニティシアターで約3ヶ月間ミュージカルに参加しました。ミュージカルのメンバーは総勢50名の地域住民で、オーディションを経て集まりました。私はそのキャストの一員として13回の公演を成し遂げ、そのときのインタビューが現地紙に掲載されました。

この活動に参加したのは、将来グローバルに働く準備として、異国の人々と共に1つのものを作り上げる経験がしたかったからです。これまでの人生で異文化交流を何度も行ってきましたが、何か協力して物事を成し遂げたことがありませんでした。そこでアメリカ人が集まる課外活動にチャレンジすることにしました。数ある活動の中でミュージカルを選んだのは、特に私の吹奏楽部での音楽経験が活かせると思ったからです。また幅広い年齢層の人々と交流するために、大学内のサークル活動ではなく地域の活動を選びました。そしてアメリカ人の集団の中に飛び込むことで、手っ取り早く英語力を向上できると考えたのも、この活動に参加した動機の1つでした。

活動では主に歌の練習と劇の通し稽古、舞台道具作りを行いました。英語の速い歌詞を歌うのは大変でしたが、リーダーに特別指導を依頼し、寝る前に必ず歌詞を口ずさむようにしたことで、最終的に歌えるようになりました。劇の通し稽古でも意味が理解できない英語の台詞はメンバーに聞くなどして、言語の壁も乗り越えられるよう努力しました。また公演に使われる舞台道具は全てメンバーで協力しあって作りしました。私は毎回欠かさず道具作りに参加し、共同作業を通じてメンバーとの結束を深めていきました。そして私が特に好きだったのが、空き時間のメンバーとの交流です。子供たちとは一緒にトランプをしたり、日本とアメリカ両国について質問しあったりしました。社会人のメンバーはレストランや雑貨店を経営していたり、オペラ歌手をしていたりと、キャンパスでは決して出会えないような人々とも交流ができたと思います。

活動を終えたとき私は大きな達成感を味わい、一緒に頑張ってきたかけがえのない仲間に対し感謝の気持ちでいっぱいでした。この活動全体を通じて実感した「文化や言語の壁を超えて1つのものを作り上げることの大変さ、やりがい」をモチベーションに、今後グローバルに活躍できるよう仕事に励みたいと思います。



国際ボランティア

栢原 朝子(文学部)

私は、去年の夏にベトナムで国際ボランティアをしました。このボランティアを通して色々な人と出会い、また自分の生活からは考えられない現状を目にして様々な事を感じました。そこで体験を少し皆さんにご紹介します。

まずこのボランティアに参加しようと思った動機は、大学1年間を振り返ってみてもっと大学という限られた時間でできる新しいことはないのか、と考えたのがきっかけでした。私は今まで何が海外に行ったことがあったのですが発展途上国は行ったことがなかったので、どのようなものが見てみたいかとベトナムを選びました。

現地での生活は、ボランティアをするという同じ目的をもってベトナムに来た人と一つの家で生活しながら活動をするというものでした。7時半にそのシェアハウスを出発し、1時間半ほどローカルバスに乗って9時から午前と午後2時間ずつボランティアをして17時頃家に帰ってきます。ボランティアの内容は、貧しくて学校に通えない子や親のいない子が通う孤児院で英語を教えるという事と、その孤児院の修繕活動、それから障害を抱える子供たちのお世話でした。

この活動では、教室では本当に可愛らしく元気いつも笑う子供達と、

授業が終わった後でのこの子供たちの生活(モノが炊飯器と以前来たボランティアからもらったガラクタシかない量一枚ほどの家での生活、お金を稼ぐ為に小さな子供達が道で宝くじを売って物乞いをしている姿)を目の当たりにしました。私の日本での生活からは考えられないのですが、中でも本当に楽しそうに笑う子供達に幸せとは何なのか、色々考えさせられました。また、ベトナムは約50年前に大規模のベトナム戦争があった国でもあり、当時の枯葉剤の後遺症を受け、体が奇形で生まれてしまった子どもこの施設には居て、戦争のむごさや何の罪もない子供達にまで影響を与える、兵器で戦う戦争がどれだけ罪かを感じました。

今回、私はボランティアを試してみたいと思って参加しましたが、実際に何かに挑むチャンスというのは皆に与えられているわけではなく、どれだけ自分の生活が贅沢なのかを知り、当たり前だと思っていた生活がどれだけ尊いものなのか、またそのありがたさを感じました。また、機会が与えられている分、もっと自分の選んだことに対して頑張らなければいけないと感じたし、もっと色々なことに挑戦して色々な人に会ってより多くの事を感じたいと思いました。ボランティアを通して自分の伝えたいことが英語で全て伝えきれなかったことが後悔だったので、もっと英語に力をつけたいのと、自分はどういうことに興味があるのかを今回感じられたので、今回の経験を通して将来の仕事に繋げていきたいと思います。



国際交流賞 候補者 募集

2014
年度

夏休みに海外ボランティア活動に参加し、感謝状が贈られた!

留学先での活動が表彰された、もしくは現地広報誌等に掲載された!

日本国内で国際交流イベントを企画した、そのときの記事が新聞に掲載された!

…など、国際交流活動を積極的に行い、かつ優秀な成果を収めた学生に「国際交流賞」を授与しています。また受賞した者の中から、特に優れた学生に、特賞を授与します。我こそは!と思う方はぜひご応募ください。

応募期間: 2014年9月24日(水) ~ 11月15日(土)

活動の対象期間: 2013年12月 ~ 2014年11月

対象要件: スポーツ・ボランティア活動・地域活動等の国際交流活動で優秀な成果を収めたもの、又は本学専任教員の推薦により成果が認められるもの。海外渡航は要件とせず、国内で行われたものも対象とする。

※募集要項や応募書類は国際課でも配布しているほか、国際教育センター HPよりダウンロードできます。

新たな協定校の紹介

新たにアメリカ・スペイン・中国の3大学と新規長期留学協定を締結し、本学の留学協定校は11カ国24大学になりました。



ウェスタン・ワシントン大学

(米国・ワシントン州)

長期協定

ウェスタン・ワシントン大学は、シアトルとバンクーバー（カナダ）の間に位置する街・ベリンガムにキャンパスを持つ公立の総合大学です。1893年創立、7学部を有し、学部生約15,000名が在籍しています。2013年度に協定を締結しました。



Western Washington University

<http://www.wvu.edu>



サンティアゴ・デ・コンポステラ大学

(スペイン・ガリシア州)

長期協定

サンティアゴ・デ・コンポステラ大学は1495年創立、学部生約40,000名、大学院生約2,000名を有する著名な公立の総合大学です。本学からの協定留学生は、「外国人向けスペイン語・文化コース」のほかに、語学レベルに応じて学部授業を履修することができます。2013年度に協定を締結しました。



Universidade de Santiago de Compostela

<http://cursosinternacionais.usc.es>



広東外語外貿大学

(中国・広東省)

長期協定

1965年に設立された広東外語外貿大学は、26,000名以上の学生を有する、外国語・対外経済貿易分野に特化した大学です。市内中心部から6kmほどに位置する広大なキャンパスには、川が流れ、木々が生い茂っています。本学からの協定留学生は中国語のほかに、語学レベルに応じて学部授業を履修することができます。2013年度に協定を締結しました。



広東外語外貿大学

<http://www.gdufs.edu.cn>



2014年後期受入れ協定留学生の紹介

後期より海外7つの協定校から10名の協定留学生を受け入れました。



ドイツ

- ・ハイデルベルク大学 Adrian Gärtner Wilhelm Vincent (アドリアン ゲルトナー ウィルヘルム ヴィンセント)
- ・ハイデルベルク大学 Miriam Voge (ミリアム フォーゲ)
- ・ボン大学 Raffaella Lesizza (ラファエラ レシツァ)
- ・ボン大学 Shari Gerlach Marie (シャリ ゲルラフ マリー)



英国

- ・エディンバラ大学 Moriah Jackson Elise (モリアア ジャクソン エリス)



中国

- ・広東外語外貿大学 林 桂璇 (リン ケイセン)
- ・復旦大学 王 高阳 (オウ コウヨウ)
- ・同済大学 範 笑天 (ハン ショウテン)



韓国

- ・高麗大学 張 周榮 (ジャン ジュヨン)
- ・高麗大学 慎 慧潁 (シン ヘリン)

留学生のRecipe



タイ

チェンマイ大学からの協定留学生スピッサラーさんがレシピを教えてくださいました。



グリーンカレー

材料 (4人分)

- 鶏もも肉 …… 1枚 (300g)
- ココナッツミルク…1缶(400ml)
- なす …… 4個
- ナンプラー ……大さじ1+1/2
- 赤ピーマン …… 1個
- 砂糖 ……大さじ2
- グリーンカレーペースト…50g
- 塩、油 …… 適量

作り方

- 1) 鶏肉は余分な脂身を取り除き、筋切りをして一口大に切ります。
- 2) なすはヘタを取り、長さを半分に切って縦4等分に切り、薄い塩水につけてアク抜きをし、水気をきります。赤ピーマンは縦半分に切って種を除き、細切りします。
- 3) 鍋に油大さじ2を熱してグリーンカレーペーストを入れ、弱火で約1分炒めます。香りが出たら、ココナッツミルクの濃い部分(缶の上部)を約200mlすくいにとって加え、混ぜながら熱します。
- 4) 油が分離して浮いてきたら、鶏肉を加えて中火で炒め、肉の色が変わったらナンプラー、砂糖を加え、水1カップを注ぎます。
- 5) なす、赤ピーマン、残りのココナッツミルクを加え、煮込んだら出来上がり。



海外旅行や留学

を予定されている皆さんへ

海外渡航中の危機管理について

近年、海外において事件や災害に巻き込まれる日本人の数が増加しています。また、本学の協定留学プログラムにおいても手荷物の盗難等が報告されています。渡航先で安全に過ごせるよう心構えと情報収集に努めましょう。また、旅先では決して油断せず、必ず以下のような行動をするよう心がけてください。

- ① 海外滞在中の予定はあらかじめ家族などに知らせておく。
- ② 現地のニュースなどで情報を確認し、安全対策に努める。
- ③ テロなどの可能性がある場合は、繁華街や観光施設、政府関係施設、軍事施設、宗教施設等に近づかない。
- ④ もし何かあった場合には、事態の大きさに関わらず、家族や大学等に自分の安否を知らせる。その際に一緒に行動している友人の情報もあれば伝える。

危機管理シートについて

短期協定留学での渡航を除き、協定留学、JSAFプログラム、認定留学、休学等で海外渡航する場合は、必ず「危機管理シート」を提出してください。これは、海外渡航期間中における危機管理(事故が起こったときの対応)のため使用するものです。「危機管理シート」は国際課および教務部で配布のほか、国際教育センターHPよりダウンロードできます。提出方法等についても、下記URLを参照してください。

<http://www.seikei.ac.jp/siis/kikikanri.html>